

左京はあとふるプランニュースレター第6号



次代の担い手となる「左京響感チーム」メンバーが、広河原地域の文化を学ぶ！
～今年度の「左京の自然を愛でるプロジェクト」が始動～

左京区役所では、「左京はあとふるプラン」（左京区基本計画第2期）が目指す「自然を愛で、歴史を学び、文化を楽しむ」まちづくりを進める一環として、美しい自然を実感して育てていただくための「自然を愛でるプロジェクト～感じて、育み、活かす～」に取り組んでいます。

今年度は、左京区内の大学生等を中心とした「左京響感チーム」メンバーが、京都市登録無形民俗文化財である「広河原松上げ」及び「広河原ヤッサ踊・ヤッサコサイ」に準備段階から翌日の片付けまで深く関わる事業を実施しました。

また、松上げ当日には、広河原松上げ保存会の協力のもと、未生流笹岡家元笹岡隆甫氏による愛宕神社への献華を行いました。

1 「広河原松上げ」とは？

防火の神を祭る愛宕神社への献火の行事であり、広河原では毎年8月24日に行われ、夏の終わりを告げる風物詩として古くから親しまれてきました。高さ約20メートルのトログへ向かって、総勢40名もの男たちが手にした松明を投げ上げる壮大な火の祭りです。



2 「広河原ヤッサ踊・ヤッサコサイ」とは？

古い盆踊りの形態を今に伝える貴重な文化遺産です。夜8時半頃、松場で地松に火が点される頃、観音堂で、女性たちによるヤッサ踊が始まります。楽器を用いないヤッサ踊は、下駄でリズムを取りながら踊ります。やがて松上げを終えた男性たちが一緒にヤッサコサイを踊ります。



第1回 ヤッサ踊・ヤッサコサイの練習

広河原学区社会福祉協議会の健康すこやか学級で行われた踊りの練習会に参加しました！

○平成24年7月28日（土）午後1時～3時（元塚源小学校体育館）



まずは、踊りのDVDを見て勉強



次に女性がヤッサ踊りの実習



最後に皆でヤッサコサイの実習

保存会 新谷副会長に
踊りの魅力などをお聞きしました。



広河原の人が思う踊りの魅力とは、観音堂に響く下駄の音や、独特な踊りとともに歌われる男女掛け合いの歌です。

この踊りを次世代へと残し、伝えていくのが私達の使命であると思っています。

踊りの練習を通して思ったこと

左京響感チーム 端野聖也（京都府立大学大学院生）



ヤッサ踊・ヤッサコサイは独特なリズムの踊りであったため、私達は最初、リズムをつかむのに苦労しましたが、広河原の方々に指導していただいたことで、何とか踊りと呼べるまでには上達しました。

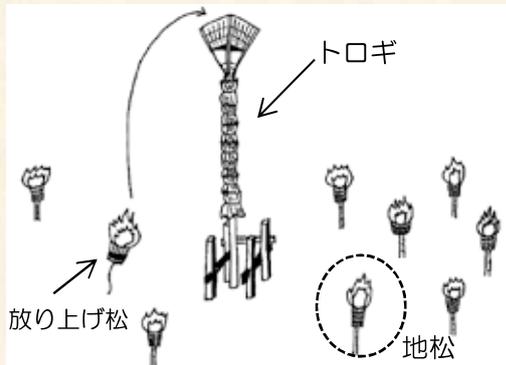
本番は観音堂で踊るので、今からとても楽しみです。

第2回 松場草刈り，^{しまつ}地松作り

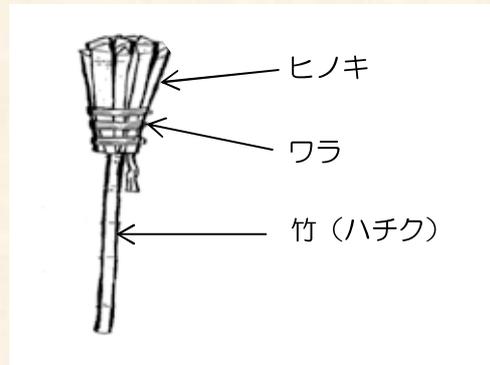
松上げの会場となる松場の草刈りと地松作りに参加しました！

○平成24年8月15日（水）午前8時～午後4時（広河原下之町 松場，観音堂）

1 松上げ簡略図



2 地松拡大図



松上げ材料の中から地松作りに挑戦！



総勢約50名で松場とその周辺の草刈りをしました。



当日駐車場となる場所の草刈りも行いました。



一昨年まで使用されていた旧トロギを切断。八幡宮の補修に使用される予定です。



保存会の方から地松作りの作業手順を説明いただきました。



保存会の方に教えてもらい地松作りの実習



なんとか地松が完成！

保存会高橋君夫さんに地松の作り方のコツなどについてお聞きしました！



材料は、1尺2寸(約37cm)のヒノキを人差し指の太さに割り、約1年間乾燥させたものを使います。それを、松上げの数日前に、一握りより少し太めの大きさのものの中程から下3箇所を3本ずつのワラでくくります。この時、気を付けることは、地松の中に十分な空気が入る空間を確保しつつ、しっかりとくぐることです。

第2回講習会を通して思ったこと

左京響感チーム 釣本聖太（京都府立大学生）

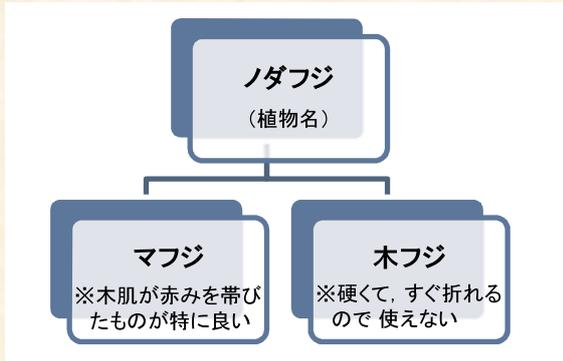


当日は、ああでもない、こうでもない、時には強い口調で言い合う地元の皆さんに、はじめは戸惑いましたが、作業が終わるとみんな笑顔になって談笑する姿を見て、広河原の方たちの固い絆を垣間見ることができ、祭りに対する熱い思いにとても感動しました。

第3回 フジツル取り講習会

松上げで使用されるトロギの材料であるフジツル取りに参加しました！
 ○平成24年8月19日（日）午前8時～午前11時（右京区京北大野町）

1 松上げで使用される「マフジ」とは？



2 ノダフジの特徴



- ・つるは下から上に向かって右巻き
- ・紫色の花を付ける
- ・成長するにつれ茎が硬くなる



山仕事のプロである保存会 段下さんから良いフジツルの見分け方を教えていただきながら作業



木に登って採取



採取したフジツル

保存会段下専太郎さんにフジツル取りの苦勞などについてお聞きしました！



フジは松上げが近づく休日に取りに行きます。広河原では良いフジが取れないので、遠くまで取りに行かなくてはなりません。取りやすい場所で短時間に取るために、フジの花が咲くころに下見をしてフジに印をつけておきます。

フジ取り当日は、若い者にマフジと木フジの違いを教えるのですが、なかなか見分けがつかないようです。また、フジ取りは高い木の上まで登り、フジを切る危険な作業ですが、高齢化が進み、上まで登れる人が減っています。良いフジを見分けることができる後継者を育てることが急務だと思い頑張っています。

フジツル取りを通して思ったこと

左京響感チーム 東口涼（京都大学大学院生）



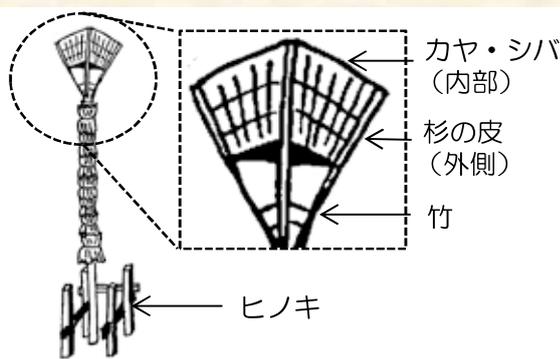
今回のフジツル取りは、ヒルの棲む山奥で良質の“マフジ”を探し出し、樹上での作業をしつつ採取するという大変なものでした。準備に参加する中で、この行事が地元の方々の見えざる苦勞や多くの山林資源によって支えられていることを実感しています。

第4回 松上げ準備・鑑賞，末生流笹岡家元による献華，踊り，片付け

松上げ当日にトロギ作り，周辺環境整備，地松点火，松上げ鑑賞，献華鑑賞，踊り参加を行い，翌日の松上げの片付けまで参加しました。

○平成24年8月24日（金）午前8時～8月25日（土）午前8時（広河原下之町 松場，観音堂）

トロギ



(トロギ作り)



トロギの笠状の部分製作



トロギを立てる

(松上げ)

午後8時半に地松の点火作業が始まり、響感チームメンバーも点火作業に加わりました。その後、間もなくして松上げが始まり、保存会の皆さんが自身の放り上げ松をトロギの笠状の部分に入れようと懸命に投げ続ける姿が見られました。10分ほどたって小倉さんの投げた放り上げ松が一番に笠の部分に入り、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。しばらくして火が回り、トロギが倒され「つつこみ」が始まりました。観覧する方々にも灰が飛んでくる程の迫力と熱気を帯びた「つつこみ」は広河原ならではの光景です。



(末生流笹岡家元笹岡隆甫氏による献華)

松上げが終わった午後9時半頃から末生流笹岡家元笹岡隆甫氏による献華が今回特別に行われました。いけ花の花材は広河原の山から採取したもの等を準備し、花器はトロギの笠状部分を模したものをしました。



(踊り)

メンバーも地元の方と一緒に踊りました！



(翌日の片付け)

締めくくりとして、松場にある燃えた地松等を回収しました。



トロギに一番に松を投げ入れた保存会の小倉祐一さんに喜びの声をいただきました！



一昨年に続き、1番に放り上げ松を投げ入れることができとても嬉しいです。今日は、参加する保存会会員のうち、中学生や高校生には負けたくないという思いで臨みました。今後もこの伝統ある行事を守り、次世代へ伝えていきたいです。

松上げを通して思ったこと

左京響感チーム 飯田義彦 (京都大学大学院生)



夜空に星が輝く広河原に、いよいよ待ち望む人々が集まっている。立ち並ぶ地松に火を灯すと、地松作りの手仕事を思い出した。放り上げ松の火の軌跡、張り上がる声、眼前にトロギが倒れてくるときの熱風。火に託す人の想いを感じた。

